

JL Japan Lifeline

第**41**期

中間報告書

2020年4月1日 ▶ 2020年9月30日



...for patient comfort.

● ごあいさつ



株主の皆様には平素より格別のご高配を賜り、厚く御礼申し上げます。

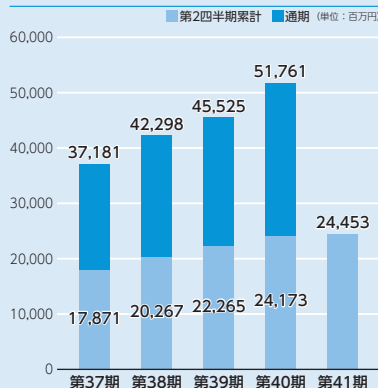
2021年3月期上期は、新型コロナウイルスの感染が拡大するなか、医療機器を取り扱う当社といたしましては、工場における自社製品の生産の継続や海外からの仕入商品の在庫確保を行い、全国の拠点を通じて確実に商品を医療現場へ届けることで、その責務を果たすべく取り組んでまいりました。一方で、症例数が減少したことから業績面での影響はありましたが、下期にかけて回復傾向となるものと見込んでおります。新型コロナウイルスについては、依然予断を許さない状況が続いておりますが、引き続き当社の責任を果たすとともに、業績の向上に取り組んでまいります。

株主の皆様におかれましては、今後ともご支援を賜りますようお願い申し上げます。

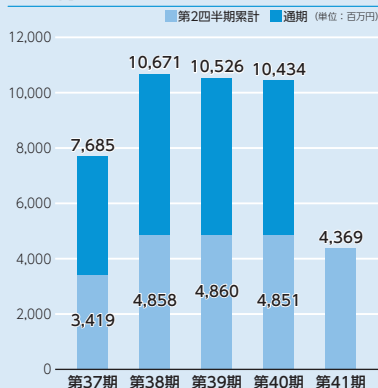
代表取締役社長 **鈴木 啓介**

主要連結財務データ

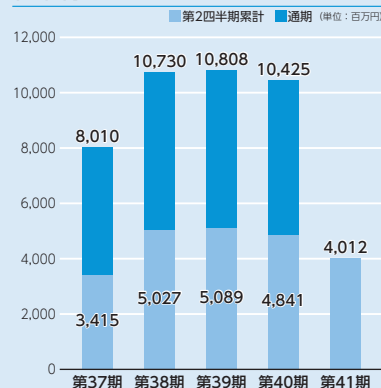
売上高



営業利益



経常利益



上期決算のポイント

- ・ボストン・サイエンティフィック社CRM関連商品が増収に寄与
- ・自社製品売上比率の低下、取引先変更に伴う販管費増加により営業利益は減少

—2021年3月期上期の概要—

当上期の販売実績といたしましては、リズムデバイスにおいて、2019年9月より販売を開始したボストン・サイエンティフィック社製CRM関連商品が大きく伸長し、売上増加に寄与いたしました。一方、EP/アブレーションでは、心房細動のアブレーション治療の症例数が6月以降は回復に転じましたが、症例数減少の影響を補うまでには至らず、上期としては減収となりました。外科関連では、腹部用ステントグラフトやオープンステントグラフトは堅調に推移したものの、一部商品の販売終了の影響により減収となりました。インターベンションでは、症例数減少に加えて保険償還価格下げの影響が大きかったことから減収となりました。

利益面におきましては、自社製品比率が低下したことから、売上総利益率が前年同期に比べ2.0ポイント低下いたしました。また、営業活動等が抑制されたことから販促関連の費用は減少しましたが、ボストン・サイエンティフィック ジャパン (BSJ) 社との独占販売契約に伴う契約金の償却費用等の増加により、営業利益は減少いたしました。

—2021年3月期通期業績見通し—

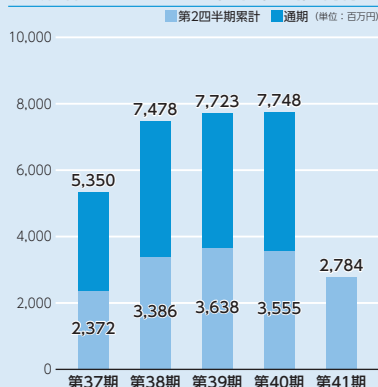
新型コロナウイルスの影響により減少した症例数は6月以降回復基調にあり、下期における販売への影響は限定的であると見込んでおりますことから、通期の売上高は前期比2.8%増を計画しております。また、下期以降も販売費及び一般管理費の抑制を見込んでおりますが、BSJ社への取引先変更に伴う費用が増加することから、通期の営業利益は前期比4.2%減を計画しております。

通期の見通しといたしましては、8月5日に開示した業績予想から変更はありません。

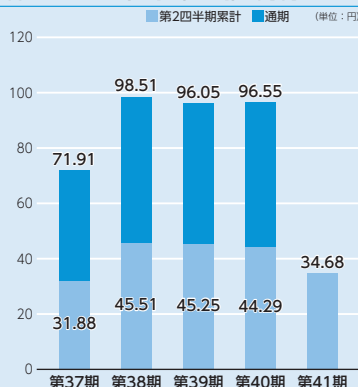
■2021年3月期連結業績予想 (2020年8月5日発表)

売上高	53,226百万円 (前期比 2.8%増) ▲
営業利益	10,001百万円 (前期比 4.2%減) ▼
経常利益	9,882百万円 (前期比 5.2%減) ▼
親会社株主に 帰属する当期純利益	6,827百万円 (前期比11.9%減) ▼

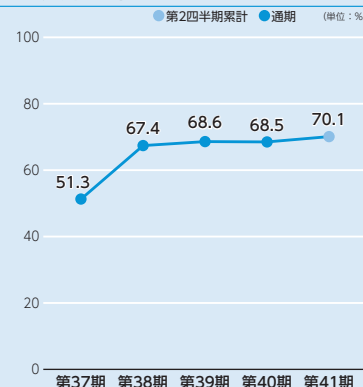
親会社株主に帰属する四半期 (当期) 純利益



1株当たり四半期 (当期) 純利益※

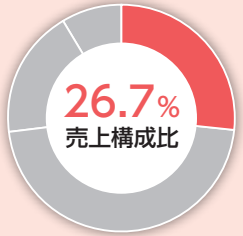

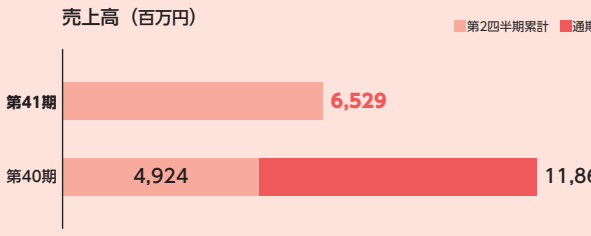
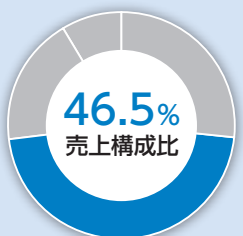

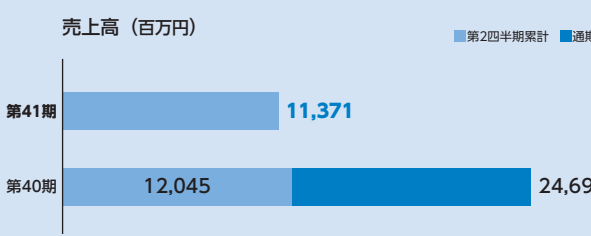
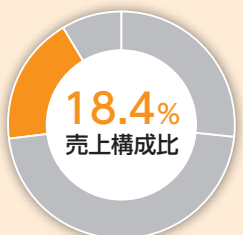
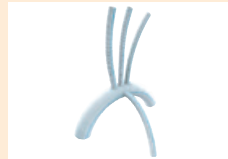
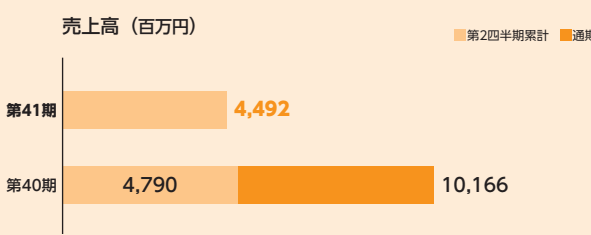
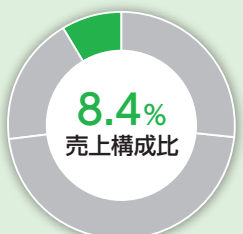

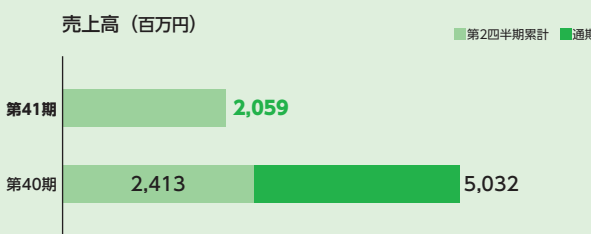


自己資本比率



※2016年12月1日付及び2018年1月1日付で、普通株式1株につき、2株の割合でそれぞれ株式分割を行っております。第37期期首にこれらの株式分割が行われたと仮定し、「1株当たり四半期 (当期) 純利益」を算定しております。

品目別売上高

<p>リズムデバイス</p> <p>売上高6,529百万円 (前年同期比32.6%増▲)</p>	 <p>26.7% 売上構成比</p>	<p>不整脈を治療する植込み型の医療機器を扱う</p> <p>▼主要取扱品目</p> <ul style="list-style-type: none"> ・心臓ペースメーカ ・ICD (植込み型除細動器) ・S-ICD (完全皮下植込み型除細動器) ・CRT-P (両心室ペースメーカ) ・CRT-D (除細動機能付き両心室ペースメーカ)  <p>心臓ペースメーカ</p>	<p>売上高 (百万円)</p>  <p>第41期: 6,529 第40期: 4,924</p>	<p>2019年9月に全面販売を開始したBSC社製品が寄与</p> <ul style="list-style-type: none"> ●ペースメーカ関連は、ボストン・サイエンティフィック (BSC) 社の「ACCOLADE」シリーズが、電池寿命の長さ等の特長により評価され、売上高が増加しました。 ●ICD関連は、オンリーワン商品であるS-ICDに加え、ICD及びCRT-Dの販売数量が伸長し、売上高が大幅に増加しました。
<p>EP/アブレーション</p> <p>売上高11,371百万円 (前年同期比5.6%減▼)</p>	 <p>46.5% 売上構成比</p>	<p>不整脈の検査や治療を行う電極カテーテルを扱う</p> <p>▼主要取扱品目</p> <ul style="list-style-type: none"> ・EP (電気生理用) カテーテル ・アブレーションカテーテル ・内視鏡レーザーアブレーションカテーテル ・心腔内除細動カテーテル ・食道温モニタリングカテーテル ・高周波心房中隔穿刺針  <p>心腔内除細動カテーテル</p>	<p>売上高 (百万円)</p>  <p>第41期: 11,371 第40期: 12,045</p>	<p>心房細動のアブレーション治療の症例数が6月以降回復</p> <ul style="list-style-type: none"> ●オンリーワン製品である心腔内除細動カテーテル「BeeAT」は、6月以降症例数が回復したことから、概ね前年同期水準の販売数量となりました。 ●内視鏡レーザーアブレーションカテーテル「HeartLight」は、新型コロナウイルスの影響により新規施設への導入が進まず、販売数量が減少しました。
<p>外科関連</p> <p>売上高4,492百万円 (前年同期比6.2%減▼)</p>	 <p>18.4% 売上構成比</p>	<p>大動脈疾患で傷んだ血管を治療する医療機器を扱う</p> <p>▼主要取扱品目</p> <ul style="list-style-type: none"> ・人工血管 ・オープンステントグラフト ・ステントグラフト ・血液浄化関連商品  <p>人工血管</p>	<p>売上高 (百万円)</p>  <p>第41期: 4,492 第40期: 4,790</p>	<p>人工血管関連は、低侵襲な製品が高く評価され堅調に推移</p> <ul style="list-style-type: none"> ●腹部用ステントグラフト「AFX2」やオンリーワン製品であるオープンステントグラフト「FROZENIX」が、コロナ禍において低侵襲で効率的な治療を可能とする医療機器に対するニーズの高まりを受け、伸長しました。 ●自社製品の人工血管「J Graft」は概ね前年同期水準の販売数量でしたが、保険償還価格の引下げの影響により、売上高は減少しました。
<p>インターベンション</p> <p>売上高2,059百万円 (前年同期比14.7%減▼)</p>	 <p>8.4% 売上構成比</p>	<p>心筋梗塞を治療するカテーテル等の医療機器を扱う</p> <p>▼主要取扱品目</p> <ul style="list-style-type: none"> ・バルーンカテーテル ・ガイドワイヤー ・貫通用カテーテル ・薬剤溶出型冠動脈ステント ・血管内圧測定用センサ付ガイドワイヤー ・心房中隔欠損閉鎖器具  <p>バルーンカテーテル</p>	<p>売上高 (百万円)</p>  <p>第41期: 2,059 第40期: 2,413</p>	<p>PCI関連製品は症例数減少と保険償還価格引下げの影響を受ける</p> <ul style="list-style-type: none"> ●バルーンカテーテル及び貫通用カテーテルは、新型コロナウイルスの影響による症例数減の影響を受け、売上高が減少しました。 ●ガイドワイヤーは、「Amati」が堅調に推移したことから、保険償還価格の引下げの影響を吸収し、売上高が増加しました。 ●薬剤溶出型冠動脈ステント「Orsiro」は、販売数量は微増となったものの保険償還価格引下げの影響により、売上高は減少しました。

● 新中期経営計画の策定について

業績目標と重点課題

当社は、本年11月に新たな中期経営計画を発表いたしました。近年EP/アブレーションをはじめとする自社製品が好調であることに加え、仕入商品においてもリズムデバイスにおける取引先変更により大幅増収を達成するなど、各領域で成長を遂げております。新中期経営計画におきましては、これらの既存領域の安定成長に取り組みながら、消化器領域への積極的な展開により、収益性の高い自社製品のさらなる成長を図るとともに、業務の生産性・効率性を向上させることで、利益面をより一層重視した成長路線への転換を目指しております。

業績目標 '21/3期～'25/3期



CAGR : Compound Annual Growth Rate (年平均成長率)

【重点課題】

1. 既存領域の基盤強化、安定成長の実現
2. コストコントロール、業務再構築による収益改善
3. 消化器領域への展開、さらなる飛躍に向けた準備

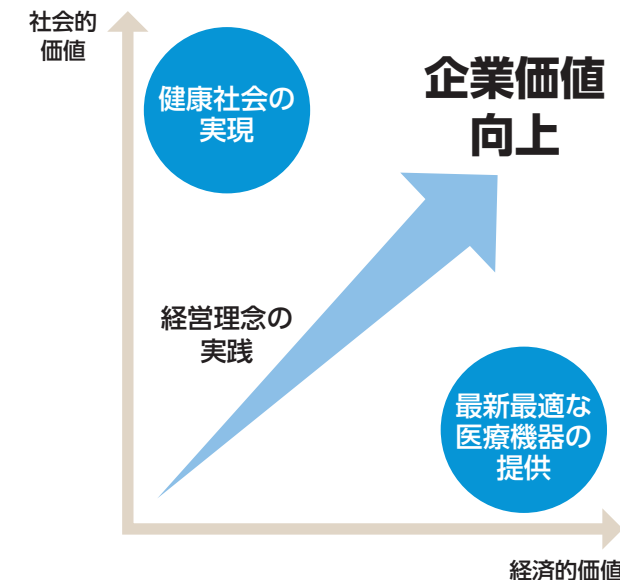
中期経営計画の3つの重点課題に取り組むことで2021年3月期から5年間の成長を実現するとともに、その先の成長を見据えた準備期間として基盤を整え、長期的な成長を図ってまいります。

経営理念の改定について

経営理念

最新最適な医療機器を通じて健康社会の実現に貢献する

当社は来年2月に創業40周年を迎えるにあたり、経営理念を改定いたしました。新経営理念には、医療機器を取り扱う企業として、患者様、医療関係者に優れた医療機器を提供するという経済的な価値だけでなく、健康社会の実現という社会的な価値も同時に追求していくことを通じて、企業価値の向上を目指すという思いを込めております。さらに経営理念の実践とあわせて、当社を取り巻く様々なステークホルダーからの期待・要請に応えるため、ESG推進の様々な取り組みを行っていくことにより、中長期にわたる持続的な成長を可能とする基盤の強化にも注力してまいります。



中期における株主還元に関する方針

中期経営計画におきましては、株主の皆様に対して、配当性向30%以上の水準を維持し、利益成長に応じた増配による株主還元を努めてまいります。

株主の皆様におかれましては、今後ともご支援を賜りますようお願い申し上げます。

トピックス

マレーシア工場における量産を開始

当社初の海外工場であるマレーシア工場（マレーシア ペナン州）において、本年6月より日本市場向けに心腔内除細動カテーテル「BeeAT」の量産を開始しました。現在、マレーシア工場では、約100名の従業員が働いており、安定的な量産体制の確立に取り組むとともに、次の量産品の立ち上げ準備を行っています。



マレーシア工場（マレーシア ペナン州）

医療機器や治療に関する最新の情報を広く発信

当社は、本年5月に、心房細動の治療方法の一つである内視鏡アブレーション治療について、医療従事者向けの情報提供サイトを開設しました。本サイトでは、経験豊富なドクターによるレクチャーやeラーニング等を提供しています。患者様向けに昨年開設した、心房細動についての情報を分かりやすくまとめたサイト「よくわかる！心房細動ナビ」とあわせて、医療機器や治療に関する情報を広く発信しています。



医療従事者向け情報提供サイト



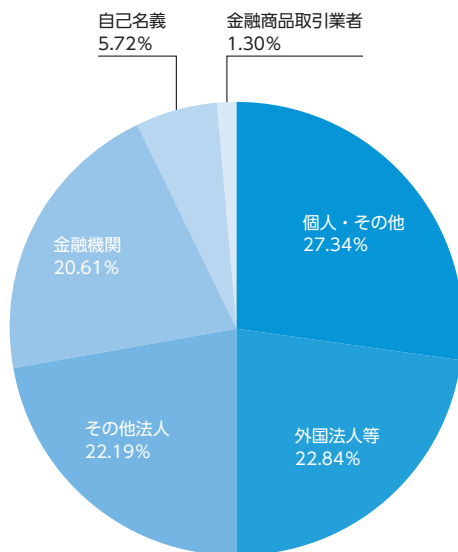
患者様向け情報提供サイト

株式情報

株式の状況 (2020年9月30日現在)

発行可能株式総数	346,400,000株
発行済株式の総数	85,419,976株
株主数	13,285名

所有者別株式分布

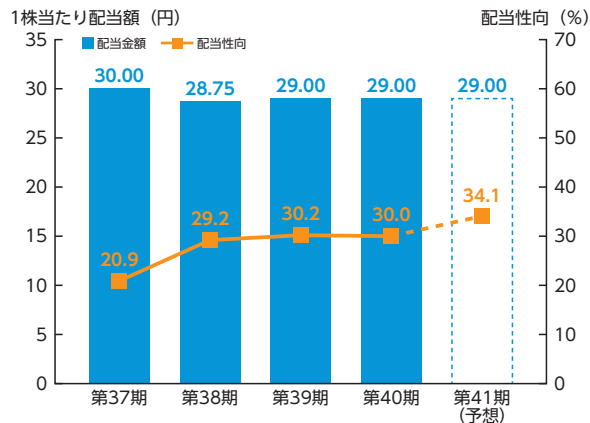


大株主

株主名	所有株式数 (千株)	持株比率 (%)
エムティ商会株式会社	9,860	12.24
KS商事株式会社	8,609	10.69
株式会社日本カストディ銀行 (信託口)	4,683	5.82
日本マスタートラスト信託銀行株式会社 (信託口)	4,165	5.17
鈴木啓介	2,560	3.18
THE BANK OF NEW YORK 133972	1,486	1.85
株式会社日本カストディ銀行 (信託口5)	1,214	1.51
JP MORGAN CHASE BANK 385781	1,192	1.48
日本ライフライン従業員持株会	1,070	1.33
GOVERNMENT OF NORWAY	859	1.07

(注) 持株比率は、自己株式 (4,889千株) を控除して計算しております。なお、自己株式には役員報酬BIP信託が保有する当社株式 (113千株) 及び日本ライフライン従業員持株会専用信託が保有する当社株式 (93千株) は含めておりません。

配当実績

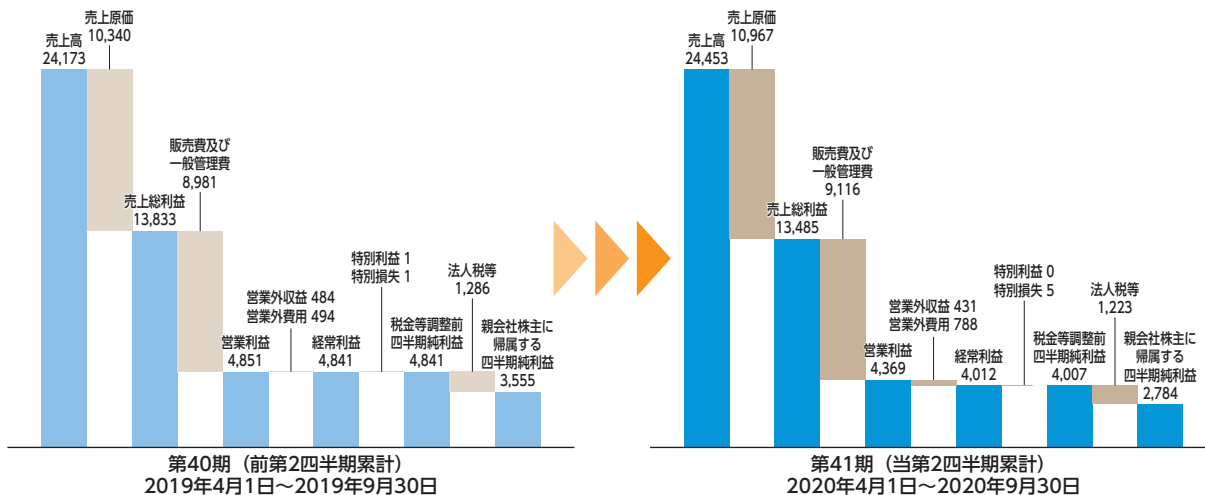


※2016年12月1日付及び2018年1月1日付で、普通株式1株につき、2株の割合でそれぞれ株式分割を行っております。1株当たり配当額においては、実際の配当額を記載しております。

連結財務諸表

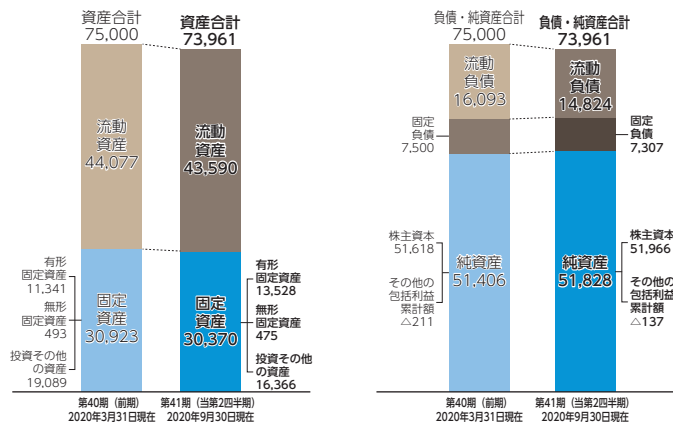
四半期連結損益計算書の概要

(単位：百万円)



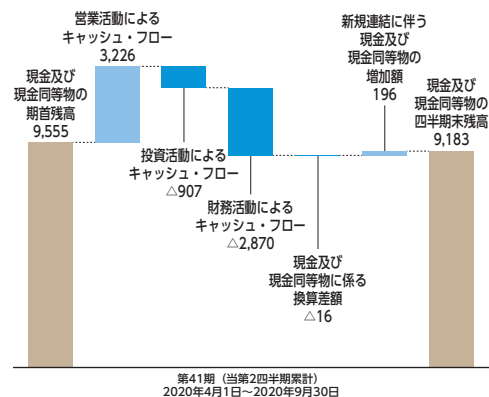
四半期連結貸借対照表の概要

(単位：百万円)



四半期連結キャッシュ・フロー計算書の概要

(単位：百万円)



会社概況

会社概要 (2020年9月30日現在)

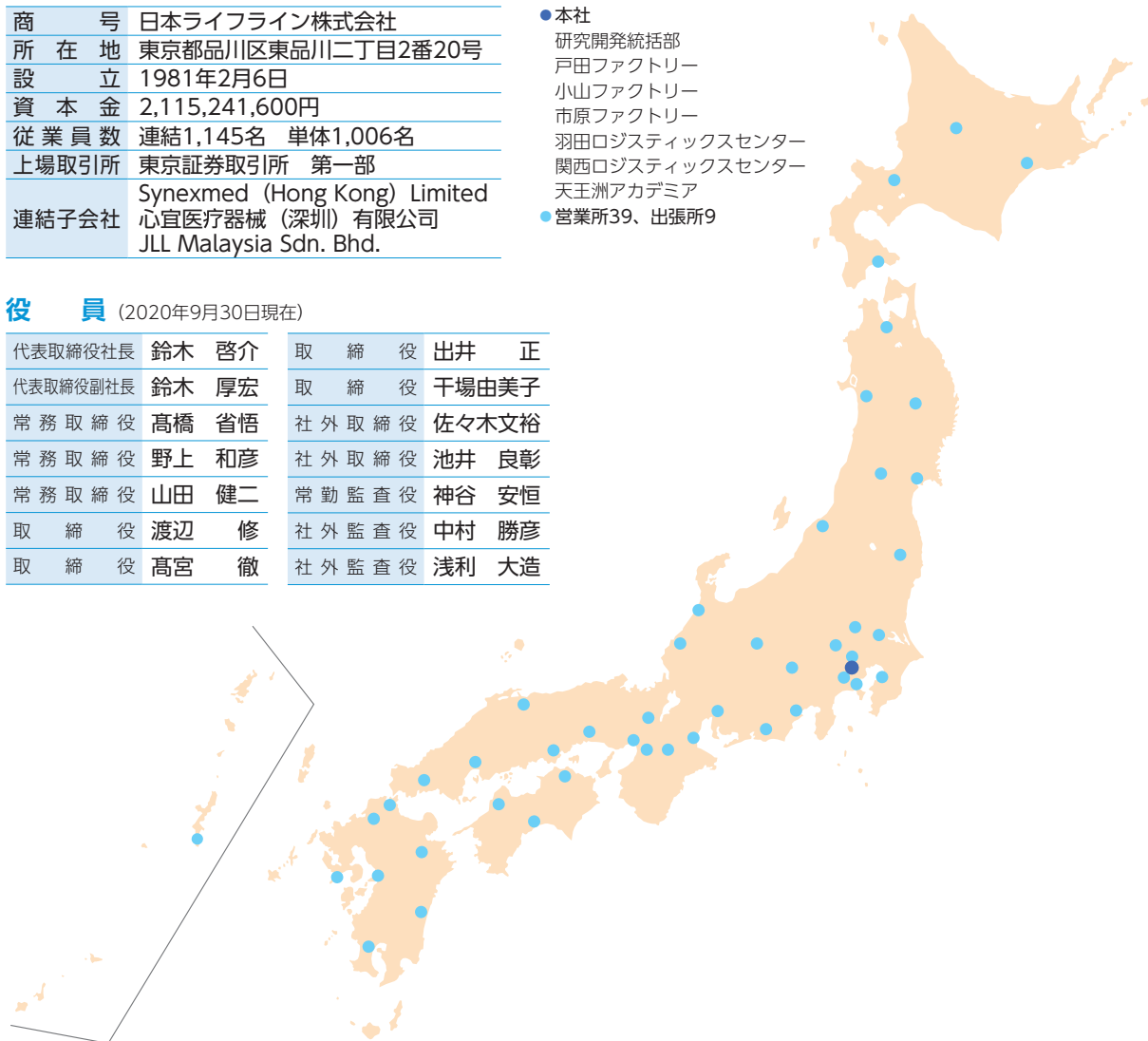
商号	日本ライフライン株式会社
所在地	東京都品川区東品川二丁目2番20号
設立	1981年2月6日
資本金	2,115,241,600円
従業員数	連結1,145名 単体1,006名
上場取引所	東京証券取引所 第一部
連結子会社	Synexmed (Hong Kong) Limited 心宜医療器械(深圳)有限公司 JLL Malaysia Sdn. Bhd.

事業所 (2020年9月30日現在)

- 本社
研究開発統括部
戸田ファクトリー
小山ファクトリー
市原ファクトリー
羽田ロジスティクスセンター
関西ロジスティクスセンター
天王洲アカデミア
- 営業所39、出張所9

役員 (2020年9月30日現在)

代表取締役社長	鈴木 啓介	取締役	出井 正
代表取締役副社長	鈴木 厚宏	取締役	干場由美子
常務取締役	高橋 省悟	社外取締役	佐々木文裕
常務取締役	野上 和彦	社外取締役	池井 良彰
常務取締役	山田 健二	常勤監査役	神谷 安恒
取締役	渡辺 修	社外監査役	中村 勝彦
取締役	高宮 徹	社外監査役	浅利 大造



株主メモ



決算期	3月31日
定時株主総会	6月
単元株式数	100株
定時株主総会の 基準日	3月31日
配当金 受領株主確定日	3月31日 なお、中間配当を実施する場合の株主確定日は、9月30日といたします。
公告方法	電子公告の方法により行います。 公告掲載URL https://www.jll.co.jp ただし、電子公告によることができない事故、その他のやむを得ない事由が生じた場合は、日本経済新聞に掲載して行います。
株主名簿管理人 特別口座の 口座管理機関	三菱UFJ信託銀行株式会社
同連絡先	三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部 〒137- 8081 新東京郵便局私書箱第29号
〈問合せ先〉	0120-232-711 (通話料無料)
〈インターネット ホームページ〉	https://www.tr.mufg.jp/daikou/

株式に関する住所変更等のお届出及びご照会について

1. 住所変更、単元未満株式の買取・買増請求、配当金受取方法の指定・変更等

- ▶ 証券会社等の口座に株式をお持ちの株主様
口座を開設されている証券会社等にお問い合わせください。
- ▶ 特別口座に登録された株式をお持ちの株主様
上記特別口座の口座管理機関である三菱UFJ信託銀行にお問い合わせください。

2. 未受領の配当金について

未受領の配当金につきましては、三菱UFJ信託銀行本店でお支払いいたします。

本報告書の記載内容のうち、歴史的事実以外の事項につきましては、現時点で入手可能な情報に基づく当社の計画または将来予測であります。実際の業績はさまざまなリスクや不確実な要因の影響により、本報告書の記載と異なる可能性がありますことにご留意ください。



最新の会社情報及びIR情報は 当社ホームページをご覧ください

当社の最新ニュース、製品案内及び財務情報等の株主・投資家の皆様向けの情報をご覧いただけます。

<https://www.jll.co.jp/investors/>



IR-eNews 投資家情報メールマガジン



IRの最新情報をお届けしております。ご登録は当社ホームページの投資家情報ページよりお願いいたします。



日本ライフライン株式会社

〒140-0002 東京都品川区東品川二丁目2番20号
電話 03-6711-5200
URL <https://www.jll.co.jp>



見やすく読みまちがえにくい
ユニバーサルデザインフォント
を採用しています。